

令和5年度 愛育保育園・職員自己評価(保育士用) 統計

【評価基準】 A:できている B:ほぼできている C:あまりできていない

1、保育の理念・保育観

| | |
|---|--|
| ①保育園の理念や目標に基づいて、こどもが実体験し自己肯定感を高められるよう取り組んでいる。 | ①、はA・B評価が多い。子どもの気持ちに寄り添い、認め、褒められることで「自分には価値がある」と感じ、自己肯定感につながるので、思いや行動を認める声かけを今後も心がけていく。②は全員がA評価となり、子どもの人権を尊重する大切さを意識していることがわかる |
| ②すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重している。 | |

2、保育計画・指導計画

| | |
|---|---|
| ①子ども一人ひとりの発達や興味の対象の実態を把握して保育計画・月案などを作成している。 | ②は全員がともにA・B評価が多いが、①③にC評価が3票入った。全員パート保育士であった。パート保育士も指導計画を把握していく必要性を感じた。(PDCA)は、今年度は、各クラスPDCAのファイルを作り、月案を立てる前などの話し合いを定期的を持つ事が意識され子どもの理解を深め、保育・指導計画に繋げることができた。 |
| ②職員間で「子どもの理解」を深め、お互いの考えを十分理解し保育している。 | |
| ③同年齢クラスで指導案について(PDCA)立案、実行、評価、改善の話し合いを行い作成した。 | |

3、保育の方法・内容

| | |
|---|---|
| ①子ども一人ひとりに分かりやすい温かな言葉で、穏やかに話かけ対応している。 | ①～⑧項目はA評価が多い。どんな場面でも優しく、穏やかな言葉遣いで保育が出来るよう、継続的に職員間で話し合いを重ねていきたい。 ⑤～⑧でC評価が入り、主体が担任になる為にパート保育士が遠慮している面が見られる。正職員、非常勤、パートに関わらず保育の方法・内容を理解したうえで、子どもが日々の保育で安心・安全健康的に過ごせるように気が付いたことがあれば職員間で情報を共有し改善に努めていく。 |
| ②活動に際して子どもが健康・安全に過ごせるような内容・環境を工夫・配慮している。 | |
| ③相手の気持ちがわかるような声かけや援助を行っている。 | |
| ④順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している | |
| ⑤絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。 | |
| ⑥身近な自然に興味・関心が持てるよう働きかけている。 | |
| ⑦身体を使った様々な遊びが取り入れられている。 | |
| ⑧子どものその日の様子を職員間で伝達し、連絡帳等の内容を検討しながら保護者に伝わるようにしている。 | |

4、健康管理・食事

| | |
|--|---|
| ①登園時や保育中の子どもの体調変化に気づき、すぐに対応できるよう努めている。 | ①、②、③はA評価が多く、子どもの健康・食事に関する項目なので全職員意識を高く持って対応しているのがわかる。④はC評価が1票入っている。感染症、特に急な嘔吐などの場合は一人で処理しようとせず、複数名で対応する(子どもの対応・汚物処理・消毒など)よう心がける。 |
| ②子どもが落ち着いて食事を楽しめるよう工夫している。 | |
| ③食事に関して、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの状況に配慮している。 | |
| ④感染症が発症した時、マニュアルに基づいて対応している。 | |

5、保育環境

| | |
|--|---|
| ①子どもが心地よく過ごすことができるよう、採光や換気、温度や湿度に配慮している。 | ①、②A、B評価が多くコロナ明けでも継続的に換気や室内の掃除、消毒に配慮した。また、遊びの環境を整える事で遊びが広がり、子どもの感受性と情緒を育てることもなるので、職員間で話し合い、保育環境を工夫してい |
| ②こどもが満足して遊べる環境の工夫をしている。 | |

6、子育て支援

| | |
|--|---|
| ①送迎の際の対話や連絡帳への記載など、保護者との関わりを積極的にするように心がけている。 | ①に○票が入っている。幾度となく保護者の感情的なクレームがあり保育者は適切な対応をしてきた。保育者や保護者の立場を考慮し、園長が仲介に入り対応した。 ②、③は殆どA、B評価。しっかりと保護者と向き合っている保育士の姿が浮かび上がってくる。定期的に虐待の研修をしっかりと行い、早期発見につなげていく。子どもの個性を認め、援助の方法や環境設定を職員間で共通理解を持って行っていく事で、子どもの個性を伸ばす事にもつながるので努力していきたい。 |
| ②保護者や子どもの様子を注視し虐待の予防や早期発見に努めている。 | |
| ③こどもの個性を十分に認め、適切な援助や環境を工夫・配慮できた。 | |

7、地域の住民や関係機関等との連携

| | |
|---|---|
| ①散歩時に周辺の住民と挨拶をしたり、地域の行事等に積極的に参加できた。 | コロナ禍明けで、地域関係機関(産業まつり、消防、警察年頭式など、主に年長児)を設けることができた。実習生やボランティアの受け入れも可能になったが、乳幼児に受け入れる機会が少なかった為、年少保育士は③に○評価や無回答が出た。 |
| ②実習生を受け入れる時には、意義や方針を理解し指導的立場にあることを意識している。 | |
| ③中高生等の保育体験やボランティアを積極的に受け入れできた。 | |

8、運営管理

| | |
|---|---|
| ①保育に関わる様々な知識や技能の向上に努め、積極的に研修に参加したり専門書を読むなど自己研鑽している。 | ①、に○評価があるのは、パート保育士であった。パートでも保育者の一員として積極的に保育に関わる知識や技能を向上していく為の研修や専門書を紹介していきたい。積極的に研修会に参加したり専門書を読むなどして、保育の知識や技術を向上させる事で、⑤の職員会議での発言力も繋げていく。誰もが自由に意見を発言できる雰囲気を作り、職員間のコミュニケーションを円滑にし、相互理解を深め、より良い保育ができるように努めていきたい。また、定期的に園長、副園長との面談を取り入れ職員の悩みを聞き保育士との信頼関係を築いていきたい。 |
| ②危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている。 | |
| ③子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している。 | |
| ④園内で知りえた事柄に対しての守秘義務を職員間で周知している。 | |
| ⑤職員会議などで、あなたは、積極的に発言している。 | |
| ⑥園長や副園長、主任、同僚との間で良好な関係を築いている。 | |